

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

LINE連携モバイルシステム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals : SDGs）を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



環境貢献ソリューション

LINE連携モバイルシステム

「LINE連携モバイルシステム」は、外来患者様のスマートフォンのLINEのトークメッセージ上で、診察状況や予約確認などの各種情報を患者様にご提供することで、快適な待合スペースを実現するソリューションです。当システムを導入することで、業務効率の改善はもちろん、患者様へのサービス向上、混雑緩和による感染症予防につながります。また、業務改善の結果として、CO₂排出量の削減にも貢献します。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



LINE連携モバイルシステムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「LINE連携モバイルシステム」は、外来患者様のスマートフォンのLINEのトークメッセージ上で、診察状況や予約確認などの各種情報を患者様にご提供することで、快適な待合スペースを実現するソリューションです。従来、診察状況を表示した表示盤の前で患者様が診察順番を待つ方式だったため、患者様が待合室から離れられず、その場に長時間待機したり、待合室が混雑し病院スタッフが患者様からの診察順番の問い合わせに追われたりするなどの問題が発生していました。

当ソリューションを導入することで、患者様を待合室でお待たせすることなく、別の場所で順番を待つ患者様のトークメッセージに、まもなく診察である旨を通知することや、患者様が入力されたメッセージに対して診察待ちの人数を自動返信することなどが可能です。

これにより、病院のサービス向上につながるだけでなく、患者様の呼び出し業務の効率化が図れます。また、待合室の混雑緩和による感染予防も期待できます。加えて、業務効率向上の結果として、CO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約33.3% ※富士通フロンテック試算

・病院スタッフの患者呼び出し、問合せ対応工数の削減

【導入前】患者呼出し、問合せ対応 約6,240時間/年（患者は診察における不明点があれば看護師/受付に問合せ）

【導入後】患者呼出し、問合せ対応 約4,160時間/年（患者は診察における不明点があれば自端末で確認）

⇒結果、約2,080時間/年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

LINE連携モバイルシステムの導入によって、何故、外来案内業務の負担が軽減されるのか？

トークメッセージ上で患者様に待ち時間等をお知らせすることで、

- ① 待ち時間が分からない患者様からの苦情が減ります。
- ② 患者様からの診察順番に関する問い合わせが減ります。

導入前

室名	診療科/医師名	診察中	まもなくお呼びします
1	眼科 山田 太郎	1212	1213 1215 1218
2	脳外科 加藤 二郎	1221	1224 1226 1228
3	小児科 松本 三郎	1231	1233 1235 1239
4	耳鼻科 木村 士郎	1241	1245 1246 1249

まだかな？

いつ案内されるのかな？

診察順番を表示盤で確認する患者様で待合室が混雑し、苦情や問合せが発生していた。

導入後

飲食店でも 自宅でも 車中でも 買い物中でも

そろそろ順番だ。病院に戻ろう。携帯で確認しよう！

LINEのトークメッセージ上で待ち時間等の情報をお伝え。待合室での待機が不要に！

お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

トータリゼータ&アミューズメント事業本部 第二システム事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/products/>